

第 72 号  
(2013.7.15)

# てし手

みんなのボランティア情報紙

発行  
社会福祉法人 四街道市社会福祉協議会  
四街道市ボランティアセンター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡無番地  
総合福祉センター3階  
TEL 043(422)2945  
直通 043(421)6300  
FAX 043(422)2807

次号は10月15日発行



あなたにもできる国際交流

日本語教室ジュニアクラス

現在、四街道市には中国、アフガニスタン、フィリピン、韓国、台湾などアジア系の方を中心に1,200人以上の外国人が暮らしています。

日本に住む理由は、国際結婚や長期の仕事など様々ですが、慣れない国での生活には多くの不安があります。宗教や文化の違いによる意思疎通の難しさを感じることもあるようです。今号では、外国の方々との交流を通して支援をおこなっている「四街道市国際交流協会」のボランティアにスポットを当てました。

代表の武野さんにお話しを伺いました。

以前、公民館の主催事業で、外国文化の理解を目的としたものがあり、外国の方をお呼びしてパーティーや民族衣装ショーを開催しました。

その活動の際に、もっと実生活に沿った支援ができないのかと感じ、「国際交流協会の前身である「国際交流友の会」が立ち上がり、在住外国人と共に暮らしやすい街づくりのための活動を始めました。

その後も友の会として活動を進めていくなかで、単独のボランティア団体だけでは、狭い域からは抜け出せないと考えていました。

そして、姉妹都市・リバモア市との交流をしてきた「リバモア姉妹都市市民の会」と統合し、「四街道市国際交流協会」となることで、活動の幅を広げることができました。

世の中では何が求められているのかをキャッチし、流れに乗り時代に沿った活動を展開していきたいし、自治会など、近隣住民の理解と協力を得ることが、外国の方がこの街で生活していくには欠かせません。

さて、私たちには何ができるのでしょいか?と手72号を見ながら、一緒に考えてみましょう。

## 日本語学習部会 水曜クラス訪問

編集委員

日本語教室が開かれている文化センター2階会議室にお邪魔しました。夜7時から9時まで開催されるこの教室には、中国・フィリピン・アフガニスタンなどから四街道市内外に居住している人々が参加しています。室内に響き渡る言葉は日本語のみ。会員が務める日本語教師や学習者もみんな日本語でやりとりしています。「英語など外国語は必要ありません」と語っていた会員の言葉通りです。

ボランティアは席を設けて6時過ぎから着席、担当の学習者が現れるのを今か今かと待っています。シニアに混じって勤め人・OLや主婦の皆さんもいます。7時近くになると学習者も三々五々集まってきました。仕事帰りの人もいたので時間はバラバラです。入口でボランティアを見つけると直ぐ隣に座って勉強が始まります。机と椅子は随時動かされ、いくつかのペアまたはグループに分かれます。紙と鉛筆で会話、パソコンを見ながら会話、日本語テキストを前に会話と色々です。室内はあちらこちらで遠慮のない日本語が飛びかかって賑やかで、とても明るいのに驚かされます。担当の学習者が欠席と判っていても顔を出して、他のボ

ランティアのお手伝いに当たる人もいます。

日本語は日本での日常生活で必須であり、マスターして自国に戻り日本語を話せると、仕事に役立つことと学習者は皆熱心です。お互いの国を紹介し合うので、居ながらにして学習者の国を旅行しているみたいで楽しいと会員の皆さんも話していました。

真の国際交流はお互いを理解し合うことと実感できた取材でした。

## 学習者に寄り添い ともに学ぶ

柴垣 正邦氏

「日本語教室」で支援するようになって1年である。この間4人の外国人と話し合うことができた。皆に共通するのは、学習に真面目であることと上達が早いことである。来日して半年のMさんはすでに、ひらがな・カタカナの読み書きができ、自己紹介はもちろん、簡単な短文での会話ができるようになっていた。

フィリピンから来て1年のDさんは、昨年11月の「スピーチ発表会」で日本語のスピーチをした。しかもテーマは、なぜ日本の若者は自殺するのかであった。原稿作成の段階で、本人からこのテーマを聞き正直びっくりした。Dさんは自国から見ると、全てに恵まれている日本で、な



ぜ若者が自らの命を絶つのか強く疑問に思ったという。Dさん自身が困難を乗り越え、念願の日本に来て働くようになった体験から、日本の若者も困難な時には閉じこもらずに家族・周りの人に相談したほうがいいと提言までしていた。5分間のスピーチが終わると、会場からは大きな拍手を得た。

支援にあたり、学習者に寄り添い、ともに歩むことを心がけている。説明の仕方を工夫したり、自分の「て・を・は」のいい加減な使い方を反省したりと学ぶことは多い。学習者が本国に帰った際、日本のよき理

解者として草の根親善大使になってもらえることを願っている。

国際交流協会の日本語学習部会には、一般成人対象の火曜・水曜・木曜クラス、小中学生のためのジュニアクラスの日本語教室があります。子どもが小さくて教室まで来られない人のための出張もします。また、教育委員会の要請を受けて学校で支援を行うグループもあります。

## 交流部会

斉藤 隆士氏

私が活動を続けている交流部会をご紹介します。

交流部会は、市民と市内に住んでいる外国人の方々との交流のきっかけとなるような各種催しを企画運営する部会です。

主な催しの例として、

- 春季バス旅行  
前年はバスでマザー牧場に行き、特に子ども達には大好評。
- ワールドキッチン  
社協まつりにて市内の外国人が自国料理を作って販売。
- ポットラックパーティー  
12月には1人1品自国の料理を持ち寄り交流。
- みんなでわいわい話す会

## お知らせ

### ● マンドリーノ・チェリー 第8回定期演奏会

～夏のひととき マンドリンやギターのさわやかな演奏をお楽しみください～

日 時：8月18日(日) 14:00～16:00  
(開場13:30)

場 所：四街道市文化センター大ホール  
曲 目：「愛の挨拶」「過去への礼賛」「地上の星」ほか

問合せ：星野 ☎421-3749 入場料無料

### ● 四視協 福祉フォーラム

「障害のある人の福祉を考える"暮らしやすい社会とは"」

第1部 基調講演「障害者総合支援法のポイント」  
講師 佐藤 久雄 氏(日本社会事業大学特任教授)

日 時：8月25日(日) 13:30～16:30  
(受付13:00～)

場 所：四街道市文化センター3階  
301・302号室

定 員：150名

参加費：無料

主 催：四街道市視覚障害者協会(略称:四視協)  
問合せ：事務局 伊佐 勉 ☎424-5351

## 報 告

### ● 5月22日 春のふれあい広場

独り暮らしの70歳以上の方々が鴨川シーワールドに行きました。「合歓の会」ボランティアの案内で童心に返った1日でした。

### ● 5月27日～6月17日 付き添いボランティアのポイントを学ぼう(全4回)

体験を通して高齢者、障がい者の方が安心して外出するための付き添いのポイントを皆さんと一緒に考えました。

## 新規登録団体の紹介

### ● 歩楽人よつかいどう 代表 土田清順

ウォーキングに親しみながら健康づくりを楽しむ会です。中央公園等のウォーキングコースを紹介し、健康なまちづくりに貢献しています。

定例会：毎月第2月曜日 10:00～12:00  
他随時

問合せ：ボランティアセンター ☎421-6300



● 世界の家庭料理(旭公民館との共催)  
外国料理を習って作って食べる。などがあります。  
今年度はこの他にも色々な催事を計画しています。  
外国人の方々と一緒に料理を作ったり、歌ったり、またおしゃべりしたり、時間を共有するなかでいつの間にか国境を忘れて楽しんでいる自分に気がつきます。  
皆さんも私たちの活動に参加して国際交流の輪をひろげましょう。催事には気楽に参加してください。楽しいことうけあいです。



## 日本語教室のボランティアさんにインタビューしました

Q ボランティアは皆さん英語が堪能なのですか？

A ここでは日本語が共通語です。

ボランティアも学習者もみんな英語が話せるわけではありません。伝える方法は様々。絵を描いたりジェスチャーだったり。コミュニケーションは言葉だけじゃありません。

Q どのような形式での学習なのでしょう？

A 学習者に合わせた進め方をできるように工夫しています。先生と生徒という関係ではありません。交流をしながら学んでいるので、ボランティアも学習者も、楽しいので長続きします。日本語の指導というより、

友達同士のような関係ですね。  
Q 読者の皆さんに伝えたい事はありますか？

A 語学が堪能でなくても、いろんな方にできるボランティアだと思います。

「学校の体操着はどこで買えばいいの？」というような日常生活のことを聞いてくる方もいます。若者の文化や流行について話をしたい学習者もいますので、若いボランティアの方も大歓迎です。

様々な年代のボランティアや学習者で大賑わいでした。

ボランティアが学習者に通訳を求める場面もありました。一方的に教える、教わるという関係ではないようです。

